

特別講演 2

「心不全パンデミック：体液管理で再入院を防ぐ」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科学 教授

伊藤 浩 先生

急性心不全は2つの病態から成り立つ。心拍出量の低下による前方障害と臓器うっ血を生じる後方障害である。体液貯留を伴う急性心不全で問題になるのが臓器うっ血である。腎機能を低下させ、組織灌流を低下させ、そして組織の炎症反応を亢進するからである。従って、体液貯留を伴う急性心不全患者は利尿により速やかにうっ血を解除する必要がある。それが、腎機能の保護と入院期間の短縮に貢献する。本講演では急性心不全における臓器うっ血の病態とその治療における利尿薬トルバプタンの役割に関して述べる。